

探訪 牧野博士の歩いた道

不入山(高知県津野町)、大塩(兵庫県姫路市)



MAKINO TOMITARO



不入山(中央)のスケッチ
写真上 不入山(中央) 令和5年11月14日撮影
写真下 不入山(中央) 令和5年11月14日撮影

牧野博士の描いた不入山を一望

「今も牧野富太郎が確認した植物があるかどうか。そんなことを想像しながら一緒に歩きましょう。」これは牧野博士の歩いた道の整備を提唱、実践している稲垣典年先生(高知県立牧野植物園アドバイザー)の言葉です。朝ドラ「らんまん」の言葉です。朝ドラ「らんまん」年の令和5年は牧野博士ゆかりの道を巡るイベントが生誕地佐川町はもちろん高知県各地で開催されましたが、なかでも特筆したいのは、牧野博士が四万十川源流地点のある不入山(標高1336m)をスケッチした場所を特定、整備した津野町の方々の活動です。

138年前の明治18年11月10日、23歳の牧野博士は今の梶原町中平から津野町船戸への採集旅行の途中、小型ノット(牧野植物園所蔵)に不入山をスケッチしており、『牧野富太郎植物採集行動録 明治・大正篇』の表4にも掲載されています。

朝ドラ「らんまん」、毎日楽しみに見ました。「らんまん」を見るために目覚め、朝は、BSと地上波の放映を2回見て、仕事を終えて帰って、夜、夫と録音で3回目を聞いて、という風にどっぴりとハマっていました。友だちと会えば、その日の「らんまん」の話、初めて会うお客様とも、らんまんの話で盛り上がりました。県外からのお客様が「もう「らんまん」が好きすぎて佐川町に来ました。」と言って、ここに感想を伝えてくださるものから、すっかりお友達のように「らんまん」の話で盛り上がるという半年間を過ごさせてもらいました。

お話が始まってからは、毎日毎日、たった15分ですが、深い内容、心に残るセリフの数々、役者さんたちの見事な演技に、すっかり「らんまん」のとりこになりました。

万太郎君のどんな人ともフラットに、人として対等平等に接する純粋な姿に、登場人物みんなが一生懸命に生きている姿に、どの人物もいとおしく、それぞれの生き方に多くのことを教えられました。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

朝ドラ「らんまん」、毎日楽しみに見ました。「らんまん」を見るために目覚め、朝は、BSと地上波の放映を2回見て、仕事を終えて帰って、夜、夫と録音で3回目を聞いて、という風にどっぴりとハマっていました。友だちと会えば、その日の「らんまん」の話、初めて会うお客様とも、らんまんの話で盛り上がりました。県外からのお客様が「もう「らんまん」が好きすぎて佐川町に来ました。」と言って、ここに感想を伝えてくださるものから、すっかりお友達のように「らんまん」の話で盛り上がるという半年間を過ごさせてもらいました。

お話が始まってからは、毎日毎日、たった15分ですが、深い内容、心に残るセリフの数々、役者さんたちの見事な演技に、すっかり「らんまん」のとりこになりました。

万太郎君のどんな人ともフラットに、人として対等平等に接する純粋な姿に、登場人物みんなが一生懸命に生きている姿に、どの人物もいとおしく、それぞれの生き方に多くのことを教えられました。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

朝ドラ「らんまん」、毎日楽しみに見ました。「らんまん」を見るために目覚め、朝は、BSと地上波の放映を2回見て、仕事を終えて帰って、夜、夫と録音で3回目を聞いて、という風にどっぴりとハマっていました。友だちと会えば、その日の「らんまん」の話、初めて会うお客様とも、らんまんの話で盛り上がりました。県外からのお客様が「もう「らんまん」が好きすぎて佐川町に来ました。」と言って、ここに感想を伝えてくださるものから、すっかりお友達のように「らんまん」の話で盛り上がるという半年間を過ごさせてもらいました。

お話が始まってからは、毎日毎日、たった15分ですが、深い内容、心に残るセリフの数々、役者さんたちの見事な演技に、すっかり「らんまん」のとりこになりました。

万太郎君のどんな人ともフラットに、人として対等平等に接する純粋な姿に、登場人物みんなが一生懸命に生きている姿に、どの人物もいとおしく、それぞれの生き方に多くのことを教えられました。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

ノヂギクを見る。『牧野富太郎植物採集行動録 昭和5年(1930)』12月1日に記されたこの「後面の山」は、現在、大塩のじぎく保存会の皆さんがノヂギクの保全活動に取り組みされている大塩町の日笠山だと思われま



野路菊 学名 Chrysanthemum japonense (Makino) Nakai

日笠山 山道

牧野人



vol.6 「らんまん」がくれたおくりもの特集!

*2023年12月発行 *企画・制作・発行・デザイン / 朝ドラ「らんまん」顕彰会 〒789-1201 高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方 kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp

朝ドラ「らんまん」がくれたおくりもの

朝ドラ「らんまん」、毎日楽しみに見ました。「らんまん」を見るために目覚め、朝は、BSと地上波の放映を2回見て、仕事を終えて帰って、夜、夫と録音で3回目を聞いて、という風にどっぴりとハマっていました。友だちと会えば、その日の「らんまん」の話、初めて会うお客様とも、らんまんの話で盛り上がりました。県外からのお客様が「もう「らんまん」が好きすぎて佐川町に来ました。」と言って、ここに感想を伝えてくださるものから、すっかりお友達のように「らんまん」の話で盛り上がるという半年間を過ごさせてもらいました。

お話が始まってからは、毎日毎日、たった15分ですが、深い内容、心に残るセリフの数々、役者さんたちの見事な演技に、すっかり「らんまん」のとりこになりました。

万太郎君のどんな人ともフラットに、人として対等平等に接する純粋な姿に、登場人物みんなが一生懸命に生きている姿に、どの人物もいとおしく、それぞれの生き方に多くのことを教えられました。



写真1 長田育恵さんを囲んで(2023.10.1 佐川町「路実」ムジナモにて)
写真2 「咲き誇る花の音コンサート」より(2023.9.24 佐川町 桜座にて)
写真3 コンサート終了後、記念に購入した「らんまん」サイン盤に、阿部海太郎さん、山下俊輔さんのサインをいただきました。
写真4 佐川町桜座 25周年 おめでとうございます。素晴らしい記念になりましたね!

「らんまん」が終わって1か月。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。

私は、まだまだ「らんまん」を楽しんでいます。長田さんの書かれた戯曲を取り寄せ、読むのが今の私の楽しみになっています。私の好きな詩人の茨木のり子や宮沢賢治の評伝劇の脚本を読みながら、舞台を想像し楽しんでいきます。



写真3

写真4

らんまんと堀見久庵

松村 繁

NHKの朝の連続ドラマで牧野富太郎博士をモデルとした「らんまん」が2023年春から始まると聞いた時、ふと気になった事があり調べ始めました。気になったら調べるとというのが私の性分であってこれは遺伝子に組み込まれたものだと確信しています。これからお話しする私の先祖様も同じであつたようです。

■ひいばあちゃんのこと——私の曾祖母（ひいばあちゃん）は佐川から嫁いできていて明治初期に佐川で幼少期を過ごしたはずであるが、牧野富太郎との接点があつたのだろうか？という事で調査開始です。まあ仕事でもなく単なる私の好奇心からでしたのでのんびりと開始しました。

■ひいばあちゃんのこと

私の父親から渡された松村家の家系情報から調べ始め、曾祖母は堀見嘉根といい明治3（1870）年10月9日生まれ、佐川の医師堀見久庵の長女で有ることが解りました。牧野富太郎博士は1862年生まれであるのほぼ同時期に佐川で過ごしていたことが判明。では兄弟はどうだろ？さらに調べてみると、堀見久庵には3男1女の子供があつて、長男は堀見克禮といい慶応3（1867）年

生まれ、長女は堀見嘉根、次男は堀見久則（滋来子）といい明治7（1874）年生まれ、三男は堀見末子（まつす）といい明治9（1876）年生まれでありました。好奇心から調べたはじめた佐川の堀見久庵とその子供たち、明らかに同時期に佐川で暮らしていたと判明したわけですが、ちなみに曾祖父（嘉根さんの夫）は松村丑太郎（翠濤）といい書家として高知県内の多くの石碑に揮毫を残しています。堀見久庵は土佐勤王党に名を連ねて武市道場に出入りして、坂本龍馬などの交流が有ったと推測されますが、松村丑太郎の父である松村善吉も武市道場の門下生で武市半平太と親しくしていたようです。

■らんまんが始まる

らんまんが始まる前にNHKから出てくる情報に触れるにつれて私の好奇心に拍車がかかってきました。牧野富太郎博士は佐川の町医者の堀見久庵から「植学啓原」（西洋の植物学を初めて紹介した本）を借りて写本をして、植物学にはまり込んだとの記述がありこれは決定的であり、登場人物に「堀田鉄寛」と息子の「堀田寛太」を見つけたのは堀見久庵と堀見克禮の親子であると判

断されたのです。その後のお話は皆さんご存じなのでドラマに出てこない富太郎さんと堀見家のエピソードをいくつか。堀見家の兄弟は富太郎と共に佐川会を作り、時々高知で会食をしていたようです。長男の克禮は阪大の医学部教授となりその息子も医師で、富太郎と交流があつたようです。次男の久則は須崎の三浦家の養子になり、三浦合同会社（丸安紙業）を経営して土佐和紙を販売していたようです。最近この子孫に当たる方からの情報では丸安紙業の東京支社から石版印刷の紙を供給していたと思われるとのことでした。三男の末子は熊本第五高等学校から東大の土木科で佑一朗君（廣井勇）の門下生となりアメリカ留学の後台湾の土木事業に貢献したとされています。ちなみに五高や東大では寺田寅彦と同窓で親友だつたようです。

■堀見久庵

こうして好奇心から始まった佐川の堀見家の調査は今なお解らないことだらけです。私にとっては高祖父にあたり面白そうな人生を送った堀見久庵についてもう少し調べてみました。幸いなことに三男の末子が自叙伝をまとめていてそれが手元

にあることや佐川町の前町長である堀見和道様から堀見家の家系図データを頂き、ジグソーパズルの様な作業をしてきました。

——

堀見久庵は天保8年（1837）8月生まれ、父は弁左衛門といい兄の正蔵は佐川深尾家の代官を務めた。元々佐川の堀見家は山内家の家老深尾家の家臣九合半兵衛が美濃国から佐川に兼任したことから始まり、後を継いだ甥が堀見姓を名乗った。その後堀見一族は14代で42家が増えてその中でも堀見利左衛門、照助、潜鰐の一家は大変栄え佐川の大地主となっていた。この時代では長男は親の後を継いで深尾家に仕え、次男、三男は養子に行く部屋住みであった。自立するには学者、医師などになるか、士分を捨てて商人になるかしかなかった。

三男であつた久庵も同様に自立するために幼い頃から名教館で学び17歳になると高知に出て、儒医、漢方医術などを学んだ。志をもって勉学に努め、多くの書物を読破した。「四書」「五経」「資治通鑑」「史記」「本草綱目」「医書」など各方面に及んだ。やがて山内家の秋野侍医の代診をして士分の患者の回診をしていた。

その後大阪に出て蘭方医の緒方郁蔵の門下に入って産婦人科を学ぶ傍ら内科を緒方洪庵に、外科と眼科を他の蘭方医から学



堀見久庵



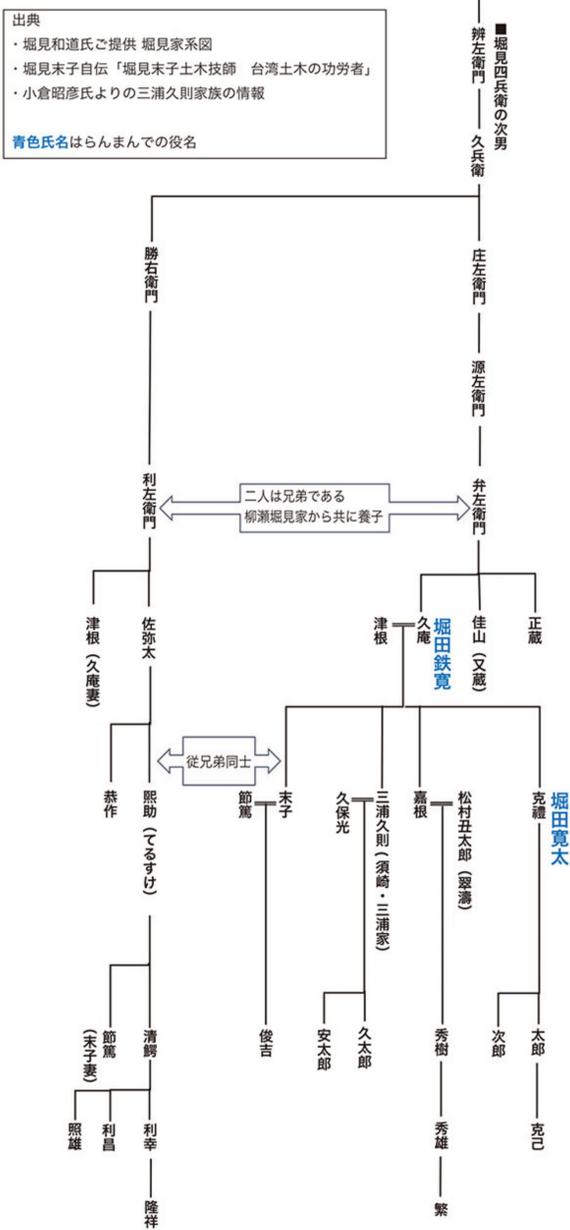
深尾松之助の従者

んだ。久庵はその後佐川に帰ると深尾家の当主に認められ、侍医を務め若君である深尾松之助の家庭教師も務めた。医師として腕も信頼され深尾家の人々の治療成果を上げていた。その頃、久庵は勤王活動も積極的だ。武市半平太、坂本龍馬、西郷隆盛とも交際していた。これら三人について息子たちにも話していたと記録されている。その後は勤王運動からきっぱりと身を引いて医業に専念した。というのも自分が大阪から佐川に腸チフスを持ち込み兄の正蔵さんが亡くなった事により一族を養い、人々を助ける医業に打ち込むことが自分の役割と考えた。



堀見津根

久庵の妻は利左衛門の末娘の津根と言い、従兄弟通しで三男一女を設けた。子供たちは佐川一の大地主となっていた照助と太郎と助も交流があつたと想像される。



佐川堀見家 堀見四兵衛次男の分家 家系図

久庵は明治になっても自由民権運動なども積極的に活動をしてきたようで、常に新しいことに興味を持ち、納得できるまで調べ大量の書物を持っていたと伝えられている。このため牧野富太郎に「植学啓原」を貸すことができたのである。この探求心の遺伝子はその子孫に確実に伝わっていると確信している。

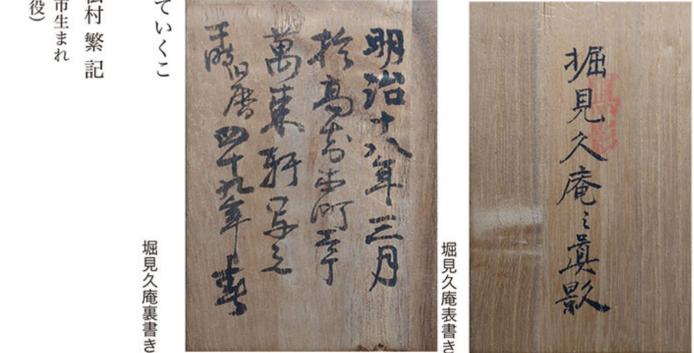
晩年は大阪にあった長男克禮の家で過ごしながら好きな旅にでていたが、明治44年（1911）1月に咽頭がんで亡くなった。長男克禮が献身的に治療をして権威と言われる医師の手術を受けたが四人の子供や孫たちも集まり、皆に看取られなくなった。享年75歳であつた。

堀見久庵やその子供たち、牧野富太郎、廣井勇など佐川の名教館で学んだ人々は積極的に英語、科学を習得しその結果として視野が広く自らが知の世界を開拓して社会に貢献してきた。

このように堀見久庵の歴史を調べていくと、玄孫である私の人生に大きな影響を与えていると確信しています。いまはインターネットがある時代ですのでも疑問があればすぐに検索できますが、それだけでなく納得のいくまで調べてその結果を自分のものとするまでやり通すことが遺伝子として伝わっています。らんまんでてくる万太郎、佑一朗君など佐川にルーツを持つ人々の好奇心旺盛な人生は実に

愉快なものと感じています。また、らんまんを通じてもつと知っていたという好奇心が、人々のつながりを生んでくれました。朝ドラ「らんまん」顕彰会や堀見家につながる方々との交流ができ疑問を埋める共同作業がこれからも続きます。情報を頂いた方々に感謝すると共に皆様の好奇心が連鎖していくことを期待しております。

2023年秋 松村繁記
（松村繁氏は昭和28年高知市生まれ株式会社コムビック代表取締役）



堀見久庵表書き

堀見久庵裏書き



豊かな自然、明るい未来を、
サプライチェーン・ロジクスで



郵船ロジクスグループは、持続可能な未来に向けて、地域の皆さまとともに歩みます

https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/